

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S5 #1 Top 10 Japanese Holidays: Tanabata/The Star Festival

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 3 Romanization
- 4 English
- 5 Vocabulary
- 6 Sample Sentences
- 6 Grammar

1

KANJI

1. 七夕
2. 一年で最も夜の天気が気になる日...それは7月7日ではないでしょうか？なぜかという、その日は七夕（たなばた）だから。七夕の「織姫（おりひめ）」と「彦星（ひこぼし）」のお話を知らないとなんのことだか分からないかも知れませんね。
3. 昔々、天帝の娘である織姫（おりひめ）と、牛飼いの彦星（ひこぼし）が恋に落ちました。織姫は機を織るのが仕事で、彦星は牛の世話をするのが仕事でした。二人とも大変働き者だったので、天帝はこの二人の結婚を認めました。ところが、織姫も彦星も結婚生活があまりに楽しく、結婚した途端二人は働かなくなってしまったのです。怒った天帝は織姫と彦星を天の川で隔て、引き離してしまいます。ただ、二人を少し哀れに思った天帝は、年に1度だけ七夕に会うことを許しました。天の川には橋がありませんが、七夕になると、カササギという鳥がどこからともなく飛んできて、二人のために橋を架けてくれるのだそうです...。
4. というのが、七夕のお話。ではなぜ、七夕の夜の天気が気になるのかというと、雨が降ると天の川の水かさが増して、カササギが橋をかけられなくなり、織姫と彦星が会う事ができなくなるからなのです。
5. 中国やベトナム、韓国にも七夕はあるそうですが、日本では願い事を短冊に書き、星の形をした飾りなどと一緒に笹の葉につるします。幼稚園や小学校の子達の子達の書く短冊の中には、覚えてたの字で「おりひめとひこぼしがあえますように」と書かれたものもたまにあります。なんだかかわいいですね。

KANA

1. たなばた

2. いちねんでもっともよるのてんきがきになるひ...それはしちがつなのかではないでしょうか?なぜかという、そのひはたなばただから。たなばたの「おりひめ」と「ひこぼし」のおはなしをしらないとなんのことだかわからないかもしれませんね。
3. むかしむかし、てんていのむすめであるおりひめと、うしかいのひこぼしがこいにおちました。おりひめははたをおるのがしごとで、ひこぼしはうしのせわをするのがしごとでした。ふたりともたいへんはたらきものだったので、てんていはこのふたりのけっこんをみとめました。ところが、おりひめもひこぼしもけっこんせいかつがあまりにたのしく、けっこんしたとたんふたりははたらかなくなってしまうのです。おこったてんていはおりひめとひこぼしをてんのかわでへだて、ひきはなしてしまいます。ただ、ふたりをすこしあわれにおもったてんていは、ねんに1度だけたなばたにあうことをゆるしました。てんのかわにははしがありませんが、たなばたになると、カササギというとりがどこからともなくとんできて、ふたりのためにはしをかけてくれるのだそうです...。
4. というのが、たなばたのおはなし。ではなぜ、たなばたのよるのてんきがきになるのかという、あめがふるとてんのかわのみずかさがまして、カササギがはしをかけられなくなり、おりひめとひこぼしがあうことができなくなるからなのです。
5. ちゅうごくやベトナム、かんこくにもたなばたはあるそうですが、にほんではねがいごとをたんざくにかき、ほしのかたちをしたかざりなどといっしょにささのはにつるします。ようちえんやしょうがっこうのこたちのかくたんざくのなかには、おぼえたてのじで「おりひめとひこぼしがあえますように」とかかれたものもたまにあります。なんだかかわいいですね。

ROMANIZATION

1. Tanabata

CONT'D OVER

2. Ichi-nen de mottomo yoru no tenki ga ki ni naru hi... Sore wa shichi-gatsu nanoka de wa nai deshō ka? Naze ka to iu to, sono hi wa tanabata dakara. Tanabata no "Orihime" to "Hikoboshi" no o-hanashi o shiranai to nan no koto daka wakaranai kamo shiremasen ne.
3. Mukashi mukashi, Tentei no musume de aru Orihime to, ushikai no Hikoboshi ga koi ni ochimashita. Orihime wa hata o oru no ga shigoto de, Hikoboshi wa ushi no se wa o suru no ga shigoto deshita. Futari tomo taihen hataraki mono datta no de, Tentei wa kono futari no kekkon o mitomemashita. Tokoro ga, Orihime mo Hikoboshi mo kekkon seikatsu ga amari ni tanoshiku, kekkon shita totan futari wa hatarakanaku natte shimatta no desu. Okotta Tentei wa Orihime to Hikoboshi o ten no kawa de hedate, hikihanashite shimaimasu. Tada, futari o sukoshi aware ni omotta tentei wa, nen ni ichi-do dake tanabata ni au koto o yurushimashita. Ten no kawa ni wa hashi ga arimasen ga, tanabata ni naru to, kasasagi to iu tori ga doko kara tomo naku tonde kite, futari no tame ni hashi o kakete kureru no dasō desu....
4. To iu no ga, tanabata no o-hanashi. Dewa naze, tanabata no yoru no tenki ga ki ni naru no ka to iu to, ame ga furu to ten no kawa no mizukasa ga mashite, kasasagi ga hashi o kakerarenaku nari, Orihime to Hikoboshi ga au koto ga dekinaku naru kara na no desu.
5. Chūgoku ya Betonamu, Kankoku ni mo tanabata wa aru sō desu ga, Nihon de wa negaigoto o tanzaku ni kaki, hoshi no katachi o shita kazari nado to issho ni sasa no ha ni tsurushimasu. Yōchien ya shōgakkō no kotachi no kaku tanzaku no naka ni wa, oboetate no ji de "Orihime to Hikoboshi ga aemasu yō ni" to kakareta mono mo tamani arimasu. Nandaka kawaii desu ne.

ENGLISH

1. "Tanabata" ("The Star Festival")
2. The day of the year when everyone is most concerned about what the weather will be like at night...surely, that would be the seventh of July? Why, you ask? Because that's the day of the Star Festival. If you're not familiar with the story of Orihime (the constellation Vega) and Hikoboshi (the constellation Altair), then you probably won't know about the Star Festival.

CONT'D OVER

3. A long time ago, Orihime, the daughter of the King of Heaven, and Hikoboshi, a cattleherd, fell in love. Orihime's work was to weave at the loom, while Hikoboshi's job was to take care of the cattle. Both were extremely hard working, so the King of Heaven gave them permission to be married. However, both Orihime and Hikoboshi enjoyed married life so much that as soon as they were married, they stopped working. Angered, the King of Heaven put the Milky Way between Orihime and Hikoboshi, separating them. But, feeling some pity for the two, the King of Heaven permitted them to meet just once a year, on the Star Festival. The Milky Way has no bridge, but when the Star Festival comes around, birds called European magpies suddenly come flying out of nowhere and apparently build a bridge for the two of them...

4. And this is the story of the Star Festival. So why do people care about the weather on the night of the Star Festival, you ask? Because if it rains, the volume of water in the Milky Way rises, so the European magpies can't build a bridge, and so Orihime and Hikoboshi can't meet each other.

5. China, Vietnam, and Korea apparently have their own versions of the Star Festival, but in Japan, people write their wishes on strips of paper and hang them up on bamboo leaves along with decorations shaped like stars and such. Among the wishes written by the children at preschools and elementary schools, there are sometimes those that say, in shaky, just-learned letters, "I wish that Orihime and Hikoboshi can meet each other." Isn't that cute?

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
途端	とたん	totan	just at the moment
短冊	たんざく	tanzaku	strips of paper used for writing wishes
天帝	てんてい	tentei	the lord of heaven
水かさ	みずかさ	mizukasa	water level, water volume
隔てる	へだてる	hedateru	to part, to separate
架ける	かける	kakeru	to lay, to build

つるす	つるす	tsurusu	to hang something down, to suspend
カササギ	カササギ	kasasagi	magpie

SAMPLE SENTENCES

<p>外に出た途端、雨が降ってきた。 <i>Soto ni deta totan ame ga futte kita.</i></p> <p>The moment I went out, it started raining.</p>	<p>短冊に願い事をひとつ書いてください。 <i>Tanzaku ni negaigoto o hitotsu kaite kudasai.</i></p> <p>Please write your wish on a strip of paper used for writing wishes.</p>
<p>決して天帝を怒らせてはならぬ。 <i>Kesshite tentei o okorasete wa naranu.</i></p> <p>You must never upset the lord of heaven.</p>	<p>台風で、川の水かさが一気に増えた。 <i>Taifū de kawa no mizukasa ga ikki ni fueta.</i></p> <p>The water level of the river rose at once due to the typhoon.</p>
<p>親戚は、川を隔てた反対岸に住んでいる。 <i>Shinseki wa kawa o hedateta hantaigishi ni sunde iru.</i></p> <p>My relatives live on the opposite shore separated by the river.</p>	<p>反対の岸まで橋を架けた。 <i>Hantai no kishi made hashi o kaketa.</i></p> <p>We built a bridge to the other bank.</p>
<p>この部屋には、シャンデリアがつるされている。 <i>Kono heya ni wa shanderia ga tsurusarete iru.</i></p> <p>A chandelier is hanging in this room.</p>	<p>カササギの巣を見つけた。 <i>Kasasagi no su o mitsuketa.</i></p> <p>I found a magpie nest.</p>

GRAMMAR

Yuichi: オーディオブログ第5シーズン第1課 「七夕」

Jessi: こんにちは ジェシーです。

Yuichi: ゆういちです。このシリーズでは、ジェシーさんと一緒に「日本の行事・祝日」を紹介しています。

Jessi: 今回紹介する日本の行事は？

Yuichi: 今回は、「七夕」です。 **Jessi:** では、聞いてみてください。

Blog

Yuichi:さて、今回のブログは七夕の「織姫と彦星の話」を詳しく説明していました。ジェシーさんは、この話知ってましたか？

Jessi:このブログを聞く前に、何となく大まかに知ってはいたんですけど、詳しいことまでよく知らなかったですね。たとえば、カササギという鳥が橋をかけてくれた話とか。

Yuichi:なるほど。この織姫と彦星が遠く離れてしまっていて、会えないというのは、現代の言葉で表現すると「遠恋」になるんですかね。

Jessi:えんれん？ あ、遠距離恋愛の短い形ですか？

Yuichi:そうです。遠距離恋愛、略して、「えんれん」です。

このかわいそうな「遠恋」の2人なんですけども、インターネットではもっと可愛そうだなと思ってしまう情報を見つけてしまいました。

Jessi:もっとかわいそう？なんですか？

Yuichi:彦星と織姫がどれくらい離れているかというのを調べた人がいるみたいなんです。

Jessi:へー、彦星と織姫の距離ですか。

Yuichi:日本の七夕伝説では、ベガという星を織姫、アルタイルという星を彦星としているみたいなんですけども、その距離がなんと約15光年あるみたいです。

Jessi:15光年？光年っていうのは、光が1年に進む距離ですね。それって、普通の距離の単位に直すとどれくらいですか？

Yuichi:はい、140兆キロメートルだそうです。

Jessi:うーん。想像がつかないですね。かなり遠いってことしかわかりません。

Yuichi:これでちょっと分かりやすくなるかもしれませんが、地球を35億周しないといけないみたいです。

Jessi:すごい！

Yuichi:でも、なんか、こうやって科学的に考えてしまうと、すごい冷めてしまいますね。

Jessi:七夕の話は、科学的に考えないで、ロマンチックなお話のまま残しておきたいですよ。

Yuichi:さて、実際に日本人が七夕の日に何をするかという話を少しおさらいしましょうか。

Jessi:日本では願い事を短冊に書くんですね。

Yuichi:はい、そうです。ジェシーさんはやったことありますか？

Jessi:あります！でも何を書いたかも覚えてないんですけど。

Yuichi:この短冊をどこに吊るすか知っていますか？

Jessi:笹の葉・・・って書いてありましたね。

Yuichi:そうです。笹っていうのは竹よりも、少し小さいんですけど、まあ、基本的に竹と同じものだと考えていいです。

Jessi:でも、どうして笹の葉に願いことをつるすんですか？

Yuichi:ちゃんと調べてきましたよ！

Jessi:おお！

Yuichi:竹は、成長するのが速くてまっすぐ、ぐーんと伸びますね。なので、そこから、竹というのは神聖なものだというふうに考えられるようになっていたんです。

Jessi:へー。

Yuichi:なので、竹は、神様やご先祖様が地上に降りる目印とにもなるので、短冊を吊るすようになったみたいですよ。

Jessi:なるほど。納得しました。

あと、もう一つ質問があるんですが、短冊に書く願い事は、どんな願い事でもいいんですか？

例えば、お金がたまりますように・・・とかでもいいんですか？

Yuichi:色々の良い質問ですね。実は、もともと「短冊は字が上手く書けるように」と願って、書いたのが始まりだそうです。

Jessi:へー。

Yuichi:ですので、短冊に書く願い事は、本当は「習い事の上達や、仕事技術の向上などが良い」らしいですよ。

Jessi:へー、そうなんです。じゃあ、「日本語が上達しますように」と書くと、かないやすいかもしれませんね。

Yuichi:そうですね。じゃあ、ジェシーさんは、短冊に願い事を書くとしたら、何を書きますか。

Jessi:んー、なんでしょうね。「宝くじに当たりますように」？

Yuichi:お金が欲しいですね。なるほど~

Jessi:祐一さんは？

Yuichi:僕は「健康でいられますように」ですかね。

Jessi:おじいちゃんみたいですね。

Yuichi:ま、やっぱり健康が何よりですからね。

Jessi:みなさんは、どんな願い事を短冊に書きますか。教えてください。

Yuichi:面白い願い事でもいいですよ。

Jessi:是非コメントをお願いします。

Yuichi:それじゃあ、また。 Jessi:さようなら。